

わたすペ通信 #4

2025年12月号
(書き出しは9月
くらい...笑)

お久しぶりです！ マリホです。なかなか高頻度でわたすペ通信を発行できずすみません。ただ、書きたいことは山のようにあって、iPhoneのメモが大変なことになっています。

さて、お盆も明けて大々朝晩が涼しくなりましたね。徐々に秋の訪れを感じ、気持ちいい気持ちになっています。そんなこんなで前号発行からも月日が経ち、その間もたくさんイベントも行いました！ バンチもついたり、ZINEもついたり、DJ講座をしたり...。楽しいだけのイベントに見えるかもしれないけれど、そうやって楽しむ機会をつくること自体に価値があると思ってやっています。そして参加者の皆さんの笑顔やコメントに救われています。特にバンチワークショップは、何気に初めて屋外で行ったワークショップで通りすがりの方にニコニコされて声をかけられたりと、とても良い経験に終わったと感じています。また、2人組でつづいたバンチたちは、こまめに完成度や形がバラバラで、個性が溢れてとてもおもしろかったです。わたすペ店前や空き地に置く予定ですので、ぜひ見比べてみてください。



よりなステキな宿に出会ったり、ステキな建築士さんに出会った。そして宿のコンセプトも明確になってきた。やはり宿づくりは良いなと思った。ゆくり、着実にやることは、宿の近隣住民の皆さんにも受け入れてもらえると感じた。とまあ、立ち止まるというキーワードで連々と書いてしまったが、言いたいののは立ち止まる必要がなくなるとも、ちゃんと速度をゆめめてやる、1ヶ月の生活速度の60%くらいで過ごしてやるのが良いのでは。そんなこんなで、来月号にはまだ敵な宿ができてくるので、ご期待です！ 応援してくださる皆さん、いつも応援してくれてありがとうございます。



立ち止まるのは怖いけど、立ち止まって考える。
2025年4月頃に、1月に民泊オープンしよう！と宣言してしまいい、その頃はまあミニマムでも運営開始できたらと考えたんだけど、わたすペもまだ1年経っていない状況なので、どこか焦っていた。何か良いニュースになっても、求められていることをしなないと、どこか焦っていたような気もする。やはりこのわたすペをまずは定着させることも、利益を出せる状態にちゃんと向き合うために、宿のオープン以来、来月号に立ち止まる決断をした。不思議なことに、そのように決断してから、とても参考になる

WATASUPE 1st ANNIVERSARY



↑1周年の日集まってくれた皆さんの
ありがとうございました！

10月20日、晴れてわたすペの来月1周年を迎えられました！ 日頃より訪れてくださる皆さんののおかげで何とか続けることができています。本当にありがとうございます。一年はプライベートでも大きな出来事があり、なんと夫ができました。働き手が増え、助かっています(笑)。なによりチームとしてのスランプの結束力がとても高まったなしと実感しています。スランプのけんは、いつもありがたう、もしかするとゆくりかもしれないけれど、着実に自分の描いている未来には近づいている実感があります。最近ではゲストさんのお友だちが関東から階上も目掛けて来て、泊まってください。まち歩きしたり、釣りしたりでとても喜んでくれています。階上の可能性、ポテンシャルはやっぱり高いなと感じています。宿が本格スタートしたら楽しみななあ。

地は足

ついてる？



この寒い地といえど、スキーやスケートなどウィンドスポーツをやる人は少ない。ただ、私はそれらの類いのスポーツがとて苦手だ。なんというか、物理的に足の裏が地面に直接触れ合っていないことが苦手すぎる。・・・とまあ、物理的な地に足問題はおいといて、楽しく生きようとする人って、どこかどっしりとしていたり、なにか悲しげや辛さとも向きあってきている力強さみたいなものも感じる。それはとても魅力的ではないだろうか。そんなように、オウちゃんに足がついた人に私もなりたい。



他人との暮らしは実験である。



今年の3月から、ケントさんとの同居生活が始まったが本当に実験実験の日々だと思ふ。私はひとり暮らし歴が長かったこともあり、もともと結構ひとりの自由な生活が気に入っていた。家族とはいえず、やはり他人ではあるわけ。できるだけ良い関係性になりたいと思うが故に、つい本音が出てしまった時や、どうしても自分の機嫌が保てないときはかなりギスギスした空気が部屋中を漂う。

絶妙な距離感、絶妙な空気感。こうすれば機嫌が良くなるのか、こうすれば機嫌が悪くなるのか。ひとつひとつ試して学んで、日々生活している（これがやりと楽しかったりする）。今ではとても良質なカメジ。最初はひとりの自由感が無くなるなーと思っていたけれど、毎晩一緒にご飯をたべられる人がいるというのも案外わるくない。

ちなみにケントさんは、大好物の「まるごと」を買ってあげると、かなり機嫌がよくなる。



「日常」

▽

一般社団法人まやがと協会

地域に根ざす人々を取材する冊子「日常」。編集長は真鶴出版の川口瞬さん。私も今年、真鶴出版に宿泊させていただき（真鶴出版は宿業出版社である）、とても良い体験（セントもいただいた大好きな宿、まちになった。全国各地のまよに溶け込む宿やお店を特集している本。わたスベで販売もしているののでいお手にとめて下さい！）とても読みやすいです。



↑真鶴町の素敵な背戸道



編集後記

まずは、第4号の書き上げに相当時間がかかってしまったこと、すみませんでした。時間本当にあつというまに過ぎさつてゆく。この間、たっさんのイベントも行ったり、たっさんの素敵な出会いがあったりしたので、また近々新作をリリースしたいと思ひます！

縁起はいつもギリギリですが、毎日が本当に楽しいです。バが健康だとこんなハッピーに日々を過ごせて、周りの人たちにも優しくできること、これから先も、たとえこの人に伝えていききたいです。そのためにできることを、ひとつひとつ形にしていきたいです。新年をもうすぐ迎えますが、今年も大変お世話になりました！